



令和2年6月15日

各医師会長 殿

横倉義武日本医師会会長候補選挙対策本部本部長
福岡県医師会会長 松 田 峻一良
(公印省略)

横倉義武日本医師会会長候補
「横倉選対ニュース Vol. 1～5」の送付について

時下 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本医師会会長候補である横倉義武先生の所信や今後の医療政策等について
掲載する「横倉選対ニュース」をこの度、発行致しました。

つきましては、本ニュース、特にウェブサイトにつきましては多くの会員の皆
様に閲覧いただきたく、貴会会員にご周知いただきますようご高配の程よろし
くお願い申し上げます。

小郡三井医師会より

会長 島田昇二郎

横倉選対ニュース Vol. 1

ニュースレター送付に当たって

コロナ禍のなか、大変困難な状況にご苦労はいかばかりかと拝察申し上げます。私も、日本医師会会長の責任の重みを受け止め、全力でこの未曾有の災禍と戦います。ご苦労をされている皆様のためにお役に立てることを最速でやる覚悟です。

来る会長選挙については、この状況下で、選挙を行うことに至ったこと、まさに私の不徳のいたすところです。

しかし、選挙することが避けられないのであれば、その中での最善を求めることが責任であると痛感しています。

すなわち、この選挙において、様々なことを判断していただくための材料を情報として発信することが求められていると考えています。

対面でのお話は厳しい環境ですので、続投を決意した理由、今後の医療政策などをニュースレターとしてお届けしたいと思っております。先日は、「立候補にあたって」を郵送させていただきましたが、今後お送りするニュースレターもお読みいただけますようお願い申し上げます。

横倉選対ニュース Vol. 2

ウェブサイト開設しました！

日本医師会長としての思い、会長選挙へ出馬するにあたっての決意、今進めていること、そして、これから進めていくことについて発信してまいります。下記の動画も掲載します。是非ご覧下さい。

◆決意表明記者会見 6月10日（水）

◆選対事務所開き 6月14日（日）

日本医師会会長候補 横倉義武

ウェブサイト <https://www.yokokura2020.jp/>

ブログ <https://note.com/yokokura2020>

選挙対策本部事務所のご案内

◆福岡事務所

場 所 福岡県医師会館内

住 所 〒812-8551 福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号

電 話 092-431-4564 FAX 092-411-6858

◆東京事務所

期 間 令和2年6月14日（日）～6月26日（金）

午前11時～午後5時

場 所 サピアタワー東京ステーションコンファレンス4階リクロス内
（東京駅八重洲北口より徒歩2分・

東京駅新幹線専用改札口（日本橋口）徒歩1分）

住 所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7番12号

電 話 03-6888-8080（代）※横倉義武選対本部とお申し付け下さい

横倉選対ニュース

Vol. 3

「チーム横倉」日本医師会役員推薦候補者

会 長 候 補	横	倉	義	武	(福岡県)
副会長候補	柵	木	充	明	(愛知県) 新
	今	村		聡	(東京都)
	茂	松	茂	人	(大阪府) 新
常任理事候補	羽	鳥		裕	(神奈川県)
	道	永	麻	里	(東京都)
	釜	范		敏	(群馬県)
	小	玉	弘	之	(秋田県)
	松	本	吉	郎	(埼玉県)
	城	守	国	斗	(京都府)
	平	川	俊	夫	(福岡県)
	長	島	公	之	(栃木県)
	江	澤	和	彦	(岡山県)
	近	藤	太	郎	(東京都) 新

(※年齢順)

横倉選対ニュース Vol. 4

令和2年6月10日にサピアタワー東京ステーションコンファレンスにて横倉会長候補が決意表明記者会見を行いました。

決意表明記者会見

日時：令和2年6月10日（水）午後6時

場所：サピアタワー東京ステーションコンファレンス

横倉会長候補決意表明内容

新型コロナの感染が続いており、社会、国民が辛抱している中で会長選挙をすべきではないという思いが強くなり、一度は、今期での引退を考えた。最終的に続投すべきだと思ったのは、この新型コロナの感染で、国民や医療機関が大変な状況にある「今だからこそ」だった。

現在、我々の社会が直面しているコロナ禍による危機は予断を許さない。第二波に襲われる危険性は高く、今日まで必死にコロナと戦い、コロナ禍においても通常医療で社会を支えようとしてきた病院や、診療所の経営状態の悪化は危機的状況である。ここを乗り越え、次の予想されるパンデミックに備え、「新たな社会のあり方」を提言するのが日本医師会の使命だと痛感している。そして、十分にその使命を果たすためには、現在その職にある私が引き続きこの問題に取り組んでいかなければならないと確信した。

私の進めてきた日本医師会としての仕事は、次の人に継承され、継続されていくものだと考えている。

しかし、今回、私が身を引くという態度を示した後、医療関連団体をはじめ多くの人に強く慰留をされた。現在、団結し纏まって行動している医療界のために翻意をするように迫られた。

「我々を見捨てるのか」と医療関係者だけではなく、国民からの声もいただいた。ただ、それだけではなく、それ以上に私の心の中に、この時期だからこそ、継続的に事に当たる責務が私にはあると確信した。

今、コロナに対峙し、これ乗り越え、そのために必要なあらゆる対策を講じ、医療機関を守り、次のパンデミックに備える医療のあるべき姿を実現していく。その責務を全うすべく、既に、社会のあり方への提言を作成し、その実現のための歩みを始めている。

ここで会長が代わるというロスを排除し、継続的に国難にあたるのが、何よりも現在の日本医師会長としての私の使命だと考え決意した。皆様と力を合わせてこの危機的状況乗り越えたいと強く心に誓っている。

今回、3人の副会長、10人の常任理事候補が力強く支援をしている。皆、自分の意志で私の執行部に入ることを表明してくれた。新たな「チーム横倉」で、“コロナ禍”で大変な日本の医療を守っていききたい。

記者から、中川氏との違いについて質問されると、「私は相手の話を聞いてから、こちらの主張もしっかりと通す。医療政策を実現するためには、社会の理解を得ることが必要で、主張だけするのは簡単で楽だが、それでは政策は決まらないと思っている」と答えた。

3副会長候補の所信表明についてはVol.5でお届けいたします。

横倉選対ニュース Vol. 5

令和2年6月10日サピアタワー東京ステーションコンファレンスにて、横倉義武日本医師会会長候補決意表明記者会見が行われた。その際同席した3副会長候補の所信表明についてお届けします。

決意表明記者会見

日時：令和2年6月10日（水）午後6時

場所：サピアタワー東京ステーションコンファレンス

柵木充明氏（愛知県医師会長）

横倉会長を支えながら、会長が考える医療政策を推し進めていくことに尽きる。新型コロナウイルス感染症では、日医と都道府県医師会が毎週金曜日、計14回会議を開き、対応にあたってきた。また、重大局面における、政治との強い絆、国民からの信頼感こそが、横倉執行部の財産であると感じている。愛知県医師会会長としての8年間の実績を基に、日医執行部で尽力したい。

今村聡氏（日本医師会副会長）

長年一緒に仕事をしてきたので分かるが、横倉会長が卓越したリーダーシップを発揮して日医をまとめ、先頭に立って活動されてきたと痛感している。これまで、かかりつけ医の普及・定着、文部科学省の中央教育審議会への日医から委員を選出したことによる

学校保健活動への貢献、経済界等との意見交換等を通じた日本健康会議の発足・活動、WHO（世界保健機関）や国連の場での発信など多くの実績がある。“コロナ禍”が続く中、国民のための医療を実践できるのは横倉会長であり、それを手伝っていくのが私の使命だ。

茂松茂人氏（大阪府医師会長）

私は、大阪府医師会会長、日医会長を歴任した故植松治雄氏の薫陶を受けてきた。地域医療、国民の医療を守っていくことが日医の役割であると述べ、“コロナ禍”に対応するためには、公衆衛生や地域医療体制の見直しが必要である。国民の医療をどう守っていくかについては、ベクトルを一つにして、日医がリーダーシップを取り、進めていく必要がある。